

頑張れ！教え子たち

「キャラアプランニンク」
講義風景。授業も真剣勝負
がモットーだ（東京国際大で）

「眠いのか？」「机の下で
何やってるんだ？」
性格的に見過すことがで
きないから、ついつい一人一
人注意して回ってしまう。

4日、伊勢崎市境保泉のゲ
ラウンドであるソフトボール
大会が開かれた。その名も第
1回「妙ちゃん's CUP」。

日立高崎時代の私の教え子た
ちが監督を務めている大学、
社会人の4チームが一堂に会
し、技術の研さんと交流を図
った。



ソフトボール元日本代表監督、NPO
法人「ソフトボール・ドリーム」理事長

宇津木 妙子

* 毎週日曜日掲載

集まつたのは、ピックカメラ高崎（日本リーグ1部）の宇津木麗華、ペヤング（同）の田上美和、大垣ミナモ（同2部）の伊藤良恵、東京国際大の三科真澄。いずれも日本代表として一時代を築いた名選手たちだ。トップアスリートには「やんちゃら」な個性派が多く、現役時代は手を焼いたものだが、今は指導官として立派にチームを率いている。大会前夜に4人と会食し、思い出話を花を咲かせた。そこでみなが「口をそろえたのが、「監督（私）の言つていい」とことが、今になってようやく理解できるようになつた

勝敗の責任を一身に背負
い、四六時中、チームのこと
ばかり考えるのが監督の仕事。どんなに情熱を傾けても、選手が思うように動いてくれない時だってある。そんな重圧、苦悩を教え子たちと共に
感概深く、指導者冥利に尽き
講義「キャラアプランニンク
(スポーツとキャラリア)」も
担当させてもらっている。私が経験してきた企業スポーツの現場、環境などを伝え、学生たちの社会的、職業的自立を促すのが狙いだ。

6月30日の講義には、大教室に200人を超える学生が集まつた。ただ、それだけの人数ともなるべく残念ながらやる気があるのか分からぬ子供たちもチラホラ……。私語をしたり、居眠りしたり、隠れてスマートフォンをいじつたりする姿が目に入つてくると、もう我慢できない。

人に注意して回つてしまつ。私が学生たちに最も伝えたいのは、何事も真剣勝負で取り組むことの大切さだ。決して安くない学費を納めて学んでいる以上は、「この授業はまるでモットーだ（東京国際大で）



現在は指導者として活躍する
教え子の（左から）三科真澄、
田上美和、私、宇津木麗華、
伊藤良恵（伊勢崎市内で）

第1回 妙ちゃん's CUP



6月30日の講義には、大教室に200人を超える学生が集まつた。ただ、それだけの人数ともなるべく残念ながらやる気があるのか分からぬ子供たちもチラホラ……。私語をしたり、居眠りしたり、隠れてスマートフォンをいじつたりする姿が目に入つてくると、もう我慢できない。

真面目な学生ばかり。「もちろん、大半は素直で、目標に向かって学んでいるのだろう。それでも、なぜ自分がこの大学を選び、どんな夢、じめに受ける」なんて簡単に退屈で気乗りしない日もあるれば、部活動やアルバイトで疲れたまつている日もある。線引きをしてほしくない。

「眠いのか？」「机の下で何やってるんだ？」性格的に見過すことができないから、ついつい一人一人注意して回つてしまう。私が学生たちに最も伝えたいのは、何事も真剣勝負で取り組むことの大切さだ。決して安くない学費を納めて学んでいる以上は、「この授業はまるでモットーだ（東京国際大で）